

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0172901092), 法人名 (医療法人社団直江クリニック), 事業所名 (グループホームゆうあい(あい)), 所在地 (旭川市神居9条8丁目1-11), 自己評価作成日 (令和2年11月10日), 評価結果市町村受理日 (令和3年3月23日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念「普通」の生活、「あたりまえ」のかかわり方、「なにげない」支え を目標に、入居者様にとって「普通」とは、「あたりまえ」とは、「なにげない」とは何かを考えながら職員一同取り組んでいます。ご家族様には気軽にホームにお越し頂ける様努めておりましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の為、玄関先で短時間での面会、またはオンラインによるリモート面会となるようお願いしております。感染が収束し「普通」の生活に早く戻ることが出来るよう願っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JigyosyoCd=0172901092-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年2月26日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所「グループホームゆうあい」は古くから旭川市民のいこいの場となってきた高砂台の麓である神居地区に位置し、事業所の正面が自然のままの丘陵と向き合うなど、手付かずの自然が四季折々の移ろいを繰り広げる光景は、利用者の楽しみとなっている。建物は平屋で入り口を中心に左右に1ユニット、計2ユニットの18人の高齢者が生活を共にしている。母体法人は医療クリニックで、地域医療を担っていたクリニックが2002年にその必要性に迫られて開設した経緯がある。当事業所の優秀な点は、理念である「普通」の生活「あたりまえ」のかかわり方「なにげない」支えを忠実に実行し、丁寧な介護に取り組んでいる姿勢を最初に挙げたい。具体的な事例として、開設時に入居された利用者が、約20年経過した今もご健在で、生活を楽しまれている点に注目したい。さすがに介護度は重くなり自力歩行は困難で車いすの使用であるが、いまなお躰躍たる姿も見せ、どの介護員よりも古株であり、また当事業所のアイドル的な存在となっている。町内会との連携やボランティア、看護学生の受け入れも積極的で、地元の人々との交流を進めながら認知症について啓発や広報に取り組んでいる。今後も「グループホームゆうあい」に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff/user satisfaction.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所・休憩室に理念を掲示し、職員全員で共有できるようにしている。	事業所独自の理念«「普通」の生活「あたりまえ」のかかわり方「なにげない」支え»を見やすい場所に掲示し、全体会議等や内部研修を通じて共有し、その実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	2か月おきの地域運営推進会議の開催・認知症カフェの参加等あったが現在は新型コロナウイルスの影響で地域運営推進会議は書面会議、認知症カフェは中止になっている。	各種ボランティアや介護の専門学校生等の実習生の受け入れ、また地元町内会のイベントやお祭りに参加したり、事業所主催の敬老会に地域の人々に参加を呼び掛けるなど、地元の人々との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々には、まだまだ活かされていないと感じる。今後も情報を発信する事に努めたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は現時点において書面会議で、地域運営会議を開催している。	地域代表や行政、包括センター、利用者家族など多彩な参加を得て毎2ヶ月ごとに定期開催している。行事や職員研修の説明に留まらず、事故やヒヤリハットについても報告し、また議事録は利用者宅に送付するなど、きめ細かくサービスに結び付けている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時には、相談連絡を行い、協力関係を築いて取り組んでいく。	制度の解釈や運営について適時指導を受け、また介護保険の更新や区分変更の申請時に各種情報も交換しながら、信頼性の高い関係継続に努め、日頃からの協力体制を維持している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指定基準を理解し、身体拘束をしないケアに努めている。玄関の施錠もしない様心掛けている。また、会議や身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会等でケア内容を確認している	身体拘束禁止委員会を設置し、指針を定めて3ヶ月ごとに開催している。事案は現状の介護内容の検証や事例検討等々で、検討した内容については都度職員に周知徹底するなど、拘束も抑制もない介護に徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や会議を通して高齢者虐待防止について学ぶ機会を設けているが、更なる理解と継続が必要と思われる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等を通して学ぶ機会はあるが、現時点で活用するまでは至っていない。更に理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等においては、利用者、家族に対し十分に説明を行っている。今後も取り組んでいきたい。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に御意見や御意向をお伺いしたり、意見箱や苦情受付も設置している。	毎月、利用者家族にお手紙と写真を郵送しており、日常生活の様子を家族に伝えている。また事業所でもいつでも意見や要望、苦情が貰える様に各職員は努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員は日々の勤務帯や申し送り・会議で意見や提案を聞く機会は設けている。また、状況に応じ、個人面談を行い職員から意見を聞く機会も設けている。	毎日の申し送り、毎月の会議等で職員の意見や提案を受け、また個別の相談を通しながら、忌憚のない会話が行われ、風通しのいい事業所となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年見直しを行っているが、不十分な状況が続いている。更なる整備が必要であると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて外部研修への参加を行っている。今年度はオンラインによる研修会に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年は神居・江丹別地域包括支援センター圏域のグループホーム交流会、多職種連携の研修会に参加しているが今年度は新型コロナ禍の為開催されていないものが多い。リモートでの委員会、研修会は参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居後にご本人の情報を収集し、情報を元に声掛け傾聴し安心して生活出来るように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	早期の段階で関係を築ける様努めているが、十分と言えない部分もある。少しでもご本人のお話を傾聴し安心できる関係づくりを築ける様心掛けたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前に自宅等を訪問し、情報が集まるよう努めている。入所後も聞き取りをし、アセスメントしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来ること・出来ないことを見極め、共に生活させて頂くという姿勢を職員は大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話、お便りでご家族へ近況報告し、ご本人様が少しでも安心して生活する事ができる様、共に支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の影響を受けているが、ご家族のみならず、知人や宗教関係の方などの訪問がある。オンラインによるリモート面会もしている。	馴染み深い風景、親しんだ山と川、本人の思い出の地や桜の名所、旭山動物園等も企画し、また好みの外食にも同行して、精神的な関係性が途絶えないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や同士の関係性を把握し関係性を考慮したテーブル席にしたりみんなで楽しめるレクリエーション等を通して関わりを深められるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、連絡を取り、必要に応じて相談や支援できるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からご本人の思いや意向を把握できるように努めている。	利用者の日々を支えながら、思いや願い、希望と意向、好き嫌いを把握している。重篤な状態等で意思疎通が困難な状態でも、仕草や表情などから、また生活歴等から本人本位の生活になるように支援に臨んでいる。	利用者本人が自分の最後の時間をどこで過ごしたいのか等に関して、具体的な思いを定期的に聞き取り・記録し、本人本位の介護となるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	経過や生活歴の把握に努めているが、十分ではない方もいる。ご本人やご家族に聞き取りし把握に努め、スタッフで共有し、ケアにつなげたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り・ユニット会議・ミニカンファレンス等で現状を把握し、共有できる様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様来所時や電話連絡時に現状を話し合い、ケース会議やミニカンファレンスで課題の検討を行い、介護計画のモニタリング、新たな介護計画を作成している。意見の活性化があれば尚良いと思う。	職員は日々の生活支援を毎月のミニカンファレンスで検証し、必要な事項や不足しているサービス、医療的側面、家族の要望を聞き取るなど総合的に勘案し、実勢にあった介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入し、情報の共有に努めている。情報を活かし、更に深められるようにしていきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	情報を収集し、出来る限りニーズを把握し対応できる様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お買い物、外食等の外出支援を、入居者様の心身状況やご家族の都合に合わせて行なえるよう支援しているが今年度はコロナ禍の為不十分である。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望を尊重し、適切な医療を受けられる様支援している。	往診や通院への支援、日常の健康管理等、適切な医療を受けられるように努めている。また、受診は本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師は不在であるが、訪問看護師病院外来看護師に状態を伝え、適切な医療が受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院のMSWや医師・看護師と情報交換し、ご本人様が安心して入院できるよう、また、早期に退院できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合や終末期には、ご家族等に十分説明をし、ご家族・事業所・医療関係者と方針を共有出来るよう努めている。	終末期について、看取りの指針を契約時に書面で説明し同意を得ている。最終段階は主治医を中心に事業所として対応し、適切な介護の提供に努めている。年間には1～2名程度の看取りを行ない、母体医院の協力を得ながら利用者の意向に最後まで沿えるよう、努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応について、マニュアルを作成したり、定期的に訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。町内会との連携は少しずつ相談している段階である。	年に2回、避難訓練を地域住民に参加要請しながら実施している。また停電時を想定し冬季暖房用のストーブ等、必要な備品を揃え、不意の災害に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の状態や様子を見ながらその場にあった言葉かけを心掛けている	礼儀は介護の基本であることを踏まえ、言葉使いや応接、プライバシーへの尊重等を日頃から気をつけるように徹底し、尊厳の重視に向けて臨んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で思っていることや考えていることを話して頂けるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の状態や様子を把握し無理のないペースで過ごして頂けるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の好みなどを把握しお化粧や爪の手入れなど、必要に応じて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者それぞれの食事の好みを把握出来るよう努めている。それぞれの意欲や出来ることを理解し、配膳を手伝っていただいたり食器拭きを手伝って頂いたりしている。	料理はその人の好みになるよう心掛け、また調理や後片付けに参加する利用者もいて、できる範囲でお願いしている。季節感を大切に、温かさが伝わる内容になるよう心掛け、利用者から好評を得る料理になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの健康状態や摂取状態を観察し、最適な食事形態で、食事量や水分量を確保できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態に合わせ舌ブラシや口腔ケアスポンジ、洗口液を使用し、出来る範囲内で自力で出来るよう努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しスタッフ間で共有している。また、声掛け、一部介助等、一人ひとりの状態に合わせて対応している。	トイレでの排泄を基本とし、排泄サインの共有によるトイレ誘導、時間による誘導等、その利用者個人に合わせた方法で、排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食事等は考慮しているがADLの低下の為、歩行困難の方が増えており、適度な運動等を促し予防に努める事が出来なくなっている場合もある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の体調や希望によってなるべく希望に添えるよう努めている。	毎日がお風呂の日としてお湯を準備し、誰でも何時でもどうぞ、を可能にしている。お風呂で一番会話が弾むと支援する介護者も入浴を楽しみにしており、ゆっくりと話し合い、笑い合いながら入浴支援を続けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や生活習慣に状況に合わせて休息時間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容を理解出来るよう、個人毎に内服薬一覧を作成している。内服薬の変更に伴う症状の変化は記録に記入しスタッフで共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状態に応じて、本人の出来る事、得意なことを考慮し、作業やレクリエーションを行っている。嗜好品等も出来る限り要望に応えられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望になるべく添い、外出支援をしているが、今年度はコロナ禍の影響で不十分である。	季節のドライブのほか、日々散歩を日課としており、ご近所のお庭を拝見したり、買い物に出かけたり、体調や天候を考慮しながら、閉じこもらない介護に努めている。墓参や初詣等も家族の協力を得ながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が困難な方が多く、金銭は持っても使う場面がないため、預り金はホームで管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	連絡を取る事が出来る方には、可能な限り電話や手紙、オンラインによる面会などやりとり出来るよう、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混雑をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられる様配慮している。また、不快なニオイ等が無いように共用空間を清掃し清潔を保っている。	玄関と事務室を中心に両ユニットに別れ、食堂と居間は各ユニットの中心部を占め、開放的な明るい空間となっている。各共有空間は施設的な華美な飾りを排した落ち着いた雰囲気であり、ゆっくりと過ごせる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じて、それぞれの好きな場所で過ごして頂ける様工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべく使い慣れた物を持ち込んで頂く事により、環境の変化を軽減でき、居心地良く過ごせる様にしている。	居室には本人の馴染みのある家具が置かれており、落ち着いた雰囲気である。室内の整理についても、本人の領域と支援の範囲が混同しないように話し合い注意深く取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりやすい表示にしている箇所もあるが、十分とは言えない。今後も自立支援に向け、必要に応じて、検討していきたい。		